

令和5年度 一般選抜中期日程 福祉情報学部 小論文
出題の意図と解答の傾向

第1問

【出題の意図】

外山滋比古『思考の整理学』（ちくま文庫、1986年）から「寝させる」という内容を引用し、思考の整理法についての問題を出題した。

急速に進むグローバル化や高度情報化をはじめ、本格的な少子高齢化・人口減少など、わが国の社会情勢はめまぐるしく変化している。こうした変化の著しい不確実な時代のなかで、個人の能力が可能な限り引き出され、活力ある社会の形成に寄与していくには、知識や技能を活用して複雑な課題を解決につなげようとする柔軟な思考力が重要となる。したがって本入試では知識や技能を活用し、課題解決につなげる総合力を支える「思考力」について問う内容とした。

問1では、思考を生み出すのにも、寝させるということが必須という筆者の考え方が文中で述べられているかどうかが重要となる。優れた考えや新しい発見が生み出されるためには、一定の時間を要するという筆者の主張を要約しながら、「枕上」とは夜ではなく朝の枕上と解する理由について適切かつ簡潔に表現する力が問われる問題である。

問2では、無意識の時間を使って、考えを生み出すということに対する筆者の考えを読み取り、それを踏まえて自由に意見を述べることのできる出題内容とした。

本学科では「現代の福祉、健康、情報、心理に関する課題解決の道筋を深く考えることができ、自分の考えを他者に伝えることができる」というひとつのアドミッション・ポリシーを掲げている。したがって、自らの主張を織り交ぜて論理的に展開できる文章力が試される設題とした。

第1問の主な採点基準

問1

思考を生み出すのにも寝させるということが必須という筆者の考えを文中から読み取り、それが「枕上」が朝の時間と解する理由として簡潔に表現できるかが問われる問題である。

筆者の考えを要約しながら、思考を生み出すには一定の時間をかけ寝させるということが必須であるという点に言及され、この記述をもって筆者が夜の時間ではなく朝の時間と解する理由として述べられているかどうかが重要となる。

問2

無意識の時間を使って、考えを生み出すことへの筆者の考えを読み取り、それに対する自己主張ができているかが重要となる。考えを生み出すことへの筆者の考えに対し肯定的な意見なのか、あるいは否定的な意見なのか明確に自己主張できているかが重要である。また、その意見を支える理由が具体的かつ独創的であり説得力をもって表現できている

かが試される問題である。

【解答の傾向】

問 1

- ・問題文が、筆者の考えの理由を述べる、という出題であるのに対し、それを述べる表現と
なっていないものが散見された。
- ・思考の整理法のひとつとしての考えを寝かせることを、一晚寝かせると取り違えている解
答が多数みられた。
- ・文意を読み取れておらず、身体的に睡眠を取ってリフレッシュすることで頭がスッキリし
て良い案が浮かぶと考えた答案が多くみられた。
- ・夜に考えることと、頭を騒がせないことの関係を取り違えている解答が多かった。
- ・朝の時間に対する筆者の思いを書けている解答が少なかった。

問 2

- ・筆者が考える「無意識の時間」とは、思考をあたためる時間であって、思考を排除する時
間ではないと読み取ることができるが、無意識の時間を何も考えない、脳をリセットさせる
時間であると捉えている解答が目立った。
- ・無意識の時間を使って考えを生み出すことに対して、肯定的な立場なのか否定的な立場な
のか、読み手の判断が必要となる解答や明確な主張がない解答も目立った。
- ・筆者の主張を自らの主張であるかのように記述している解答が見られた。
- ・漢字が使用できる語句で漢字を使用せず、ひらがなで記述している解答者が多かった。

第 2 問

【出題の意図】

問 1

- ・基本的なグラフから、主要なポイントを読み取ることができているか。
- ・グラフから、適宜、具体的な数値を的確に用いて、客観的に、論理的に主張できているか。
という観点を評価するために出題した。

問 2

- ・基本的なグラフから、主要なポイントを読み取ることができているか。
- ・グラフから読み取れる状況になった 1 つ以上の理由を、グラフから分かること以外の知
識を使って推測できているか、または、具体的な数値を的確に用いて、理由を論理的に説明
できているか。
という観点を評価するために出題した。

問 3

- ・基本的なグラフから、主要なポイントを読み取ることができているか。

・複数のグラフから読み取れることをふまえて、総合的に考察し、自身の考えを整理し、分かりやすく論理的に説明できているか。

という観点を評価するために出題した。

問 4

・基本的なグラフから、主要なポイントを読み取ることができているか。

・グラフから、適宜、具体的な数値を的確に用いて、客観的に、論理的に主張できているか。

・複数のグラフから読み取れることをふまえて、総合的に考察し、自身の考えを整理し、分かりやすく論理的に説明できているか。

・複数のグラフから読み取れることをふまえ、グラフから分かること以外の自身の知識も総動員して、未来を展望することができるか。

という観点を評価するために出題した。

第2問の主な採点基準

問 1

(1) グラフから主要なポイントを抽出できているか。

(2) 具体的な数字で評価できているか。

(3) 理由が理にかなっているか。

問 2

(1) グラフから主要なポイントを抽出できているか。

(2) 理由についてグラフから分かること以外の知識を使って推測できるか、または、具体的な数字で評価できているか。

(3) 他の理由を示しているか、または、理由が理にかなっているか。

問 3

(1) グラフから主要なポイントを抽出できているか。

(2) 具体的な数字で評価できているか。

(3) 図1から読み取れることをふまえた理由を示しているか。

(4) 図2から読み取れることをふまえた理由を示しているか。

問 4

(1) これまでの推移から主要なポイントを抽出できているか。具体的な数字で評価できているか。

(2) 今後の予測から主要なポイントを抽出できているか。具体的な数字で評価できているか。

(3) これまでの世界の動画配信・音楽配信・電子書籍の市場規模の推移と図1、2、3の主要なポイントを関連づけた記述があるか。

(4) 図1、2、3から読み取れることをふまえた展望を示しているか。

【解答の傾向】

問 1

- ・ネット利用時間の増加、新聞閲読ならびにテレビ視聴時間の減少に言明した解答が多く見られた。一方で具体的な数字を用いて評価した解答は半数程度にとどまった。
- ・理由についてはオンデマンド視聴の可能な YouTube などのネットメディアや、ネットニュース、スマートフォンの普及に求める解答が多かった。

問 2

- ・図から主要なポイントを読み取ることは概ねできていた。必ずしも主要なポイントではなくても、図が示す傾向を読み取れていれば評価した。
- ・指摘したポイントに対して、何故そのようになったのかという理由を的確に指摘し、さらにその背景まで説明している解答はあまり見られなかった。
- ・複数の理由の間に関連がなかったとしても、それら個々の理由に論理的な矛盾がなければ加点した。

問 3

- ・評価 2 に関わる「具体的な数字」を用いた解答はほとんどなかった。
- ・字数不足や白紙解答が多かった。
- ・広告の媒体はインターネットが多く採用されており、インターネットの利用時間の長い若者向けに作られているといった解答がみられた。
- ・テレビメディアなどの媒体は横ばいとなっているが、主に 50 代、60 代向けに作られていることが予想されるといった解答がみられた。

問 4

- ・図 1、2、3 から読み取れることを関連づけて考察し、展望を記すことを求めているが、しっくりできている解答とそうでないものに分かれた。
- ・数字の推移を分析した上で記述できている解答が想定した以上に少なかった。
- ・解答用紙の使い方に混乱がみられた（行頭を 1 文字空けるなど）が、採点はどちらも可とした。英数字の書き方についても、1 マスに 2 字ずつあるいは全角、半角などは減点していない。
- ・「電子書籍」と「インターネットの情報」を混同している記述が複数みられた。